

近世文書に残された中世の記憶 ～幻の女堀～

おんなぼり 女堀は、現在のかみいずみまち前橋市上泉町から伊勢崎市くにさだまち国定町に向けて、赤城山のすそ野を東西約12kmにわたって横断するかつての用水路の跡です。

平安時代の終わりに掘られ、最終的には未完に終わったと見られています。不思議なことに、これほどの大事業にも関わらず一切当時の記録に出てきません。その後すっかり忘れ去られてしまった幻の巨大用水路でした。ところが、江戸時代半ばには女堀を再興し、水不足を補うよう企てる動きがあったようです。今回の展示する史料は、当館が収蔵するふくしまえいいちけ福島英一家文書(P0110)のなかから、江戸時代後期の女堀復興計画に関する古文書を紹介します。

展示史料について

この史料は、かつて建設され、未完成に終わった女堀の復興に関する天保一〇年(一八三九)の史料です。上泉村より桃ノ木川を分水し佐位郡五目牛村近くの粕川まで掘り抜く計画が記されています。これにより、世良田村辺りの粕川用水組合まで水がいきわたり、これまでの古田はもちろん畑・山林まで畑田になると、復興のメリツトが述べられています。しかし、現実には挫折したようです。

福島家のあった新田郡境村(現在の伊勢崎市境東)は畑作主体の村でした。村の北を世良田用水(粕川)・長溝川が流れるものの水利が乏しく、天保期以降、新たな用水確保が模索されていました。この史料もその中で出されたものでした。その後も水を求める模索は続いたようで、福島家文書には様々な河川・用水を描いた絵図や古文書が残されています。

落合議定一札之事
 一此度女堀筋^江新用水路相目論見、上泉村方
 桃木川分水いたし佐位郡五目牛村近粕川迄
 掘抜候^而、新田郡世良田村辺粕川筋組合迄順水
 致候^而、落合村方は迄之古田^ハ不^レ及^レ申畑^并
 山林等迄^茂畑田成^ニ相成場所、粕川組合^与
 同組合^ニ相成候^而、水下村迄致^ニ水行^一候^而
 村方一同落合仕、吾人^茂不承知之もの無^ニ御座^一候、
 依^レ之議定連印仕候処、如^レ件
 天保十己亥年十月四日
 飯土井村
 長百姓 磯兵衛
 組頭 久米右衛門
 同 弥惣次
 名主 利兵衛
 (後略)

【釈文】

落合議定一札之事

一此度女堀筋^江新用水路相目論見、上泉村方
 桃木川分水いたし佐位郡五目牛村近粕川迄
 掘抜候^而、新田郡世良田村辺粕川筋組合迄順水
 致候^而、落合村方は迄之古田^ハ不^レ及^レ申畑^并
 山林等迄^茂畑田成^ニ相成場所、粕川組合^与
 同組合^ニ相成候^而、水下村迄致^ニ水行^一候^而
 村方一同落合仕、吾人^茂不承知之もの無^ニ御座^一候、
 依^レ之議定連印仕候処、如^レ件

天保十己亥年十月四日

飯土井村

長百姓 磯兵衛
 組頭 久米右衛門
 同 弥惣次
 名主 利兵衛
 (後略)